

新しい飛躍が期待される

ナショナル・バレエ団



「ケットンタンツ」を踊るカレン・ケインとフランク・オーグスティン

カナダ・ナショナル・バレエ団が、創立二十五周年を迎えた。イギリスの著名なバレエトナ、シーリア・フランカ（サドラーズ・ウェルズ・バレエ団の元主役）が、一九五一年に同バレエ団を苦心の末に作り上げた頃のカナダは、彼女の言を借りれば、「なよなよした男の子がタイムツをはいて走り回ったり、女の子がタイム先で舞台の上を漂うのを見るなんて馬鹿らしい……」と考えているような状況であつたらしい。

しかし、四半世紀の間に、ナショナル・バレエ団は、国内外で高い評価を得るまでに成長した。昨年七月にニューヨークで公演した際は、ニューヨーク・タイムズのバーンス記者が、同バレエ団を「国家的にも興味深いバレエ団のひとつ——大バレエ団とは言いがたいが、大バレエ団になる真しな野心をもったバレエ団」と呼び、また一九七五年のロンドン公演では、オブザーバー紙がジゼルを踊ったカレン・ケインと彼女の恋人役フランク・オーグスティンを激賞し、ナショナル・バレエ団は国際レベルに達した、と書いたほどである。

ナショナル・バレエ団創立当時のカナダは、一般大衆のバレエに対する認識が

低く、さらに適当な劇場や技術・舞台関係の要員が不足していただけでなく、バレエで身を立たいと切望する若い踊り手たちも、その多くはプロとしての経験もなく、一流の訓練も受けていなかった。とりわけ経済面での援助は極端に少なく、当初は政府の補助も皆無だった。

そうした状況にもかかわらず、ナショナル・バレエ団は最初の十年間に大きな発展を遂げた。国内横断公演、米国での公演、レパートリーの拡充、そしてバレエ学校の創設（一九五九年）……。

一九六〇年代になると、団の実績が認められて、個人や団体の寄付ばかりでなく、カナダ文化振興会のような政府の補助金交付機関の財政援助も受けられるようになった。劇場芸術が広くカナダ全土にわたって発展し、発展にともなう関係設備も改善された。トロントのオキーフ・センターやモントリオールのプラス・デザール（芸術広場）の完成に伴って、ナショナル・バレエ団は、いっそう舞台装置に凝った上演ができるようになり、さらに、全国の劇場設備が改善されるとともにそうした作品を巡業に出すこともできるようになった。

故ジョン・克蘭コの世界的に有名な作品「ロメオとジュリエット」もレパートリーに加えられ、一九六四年、プラス・デザールで初公演された。モントリオールで開かれたエキスポ67に出演したナショナル・バレエ団は広く注目を浴び、二年后に、フランスの著名な振付師ローラン・ブチの特別振付けによるバレエ「クラーナード」で、オタワの国立芸術センター・オペラハウスのこけら落しをする榮譽を担うことになった。

七十年代に入って、ナショナル・バレエ団は、クラシック・バレエ団としてはただひとつ、大阪のエキスポ70に出演招待されるなど、国際的にも評価が高まってきた。一九七二年には、シーリア・フランカを芸術監督として、ロンドンを皮切りに団にとって最初のヨーロッパ巡業を行なった。飛躍のための重要な一歩を踏み出したわけである。

同年、ナショナル・バレエ団は、米国の伝説的な興行主、故ソル・ヒューロックと独占契約を結んだ。以来、ルドルフ・ヌレーエフを振付師として迎え、ヒューロックの後援のもとに合衆国で二度の長期巡業を行なった。ニューヨークでは、メトロポリタン・オペラハウスで三回も上演している。一九七三年のニューヨークでのデビューでは、ヌレーエフの振付けによる「眠れる森の美女」を全景上演した。一九七四年、メトロポリタン・オペラハウスでの二度目の公演のときには、ニューヨークの観客にまたひとつ新しい作品をお目にかけている——ジョン・ニューマイアの「ドン・ファン」である。

また、ナショナル・バレエ団はCBC（カナダ放送協会）と協力して、バレエのテレビ放送にも力を入れてきた。シーリア・フランカの「シンデレラ」、ルドルフ・ヌレーエフの「眠れる森の美女」（いずれもノーマン・キャンベル演出）などはエミール賞を獲得するという好結果を生んでいる。

団の踊り手たちは、国際的なバレエ・コンクールでも認められてきた。一九七〇年には、ナディア・ポッツがヴァルナ国際バレエ・コンクールで特別賞を獲得した。三年後のモスクワ国際バレエ・コ

ンクールでは、カレン・ケインが個人で銀メダルを、フランク・オーグスティンと組んでパ・ド・ドウ賞を獲得した。さらに、団の主要な踊り手たちの何人かは、他のバレエ団に招かれて客員出演している。

一九七四年七月一日、デビッド・ハーバー（一九七三年以来芸術監督補）がシーリア・フランカの後を継いで芸術監督の地位につき、このバレエ団との生涯の関係の最後を飾ることになった。彼の



ナショナル・バレエ上演の「ジゼル」

カナダや合衆国で得た演劇上の幅広い経験、団の制作関係者に伝える立場にいたわけである。昨年七月には、ロイヤル（ウイニベグ）バレエで三十年間にわたって中心的存在であったアレクサンダー・グラントが、乞われてナショナル・バレエの芸術監督に就任した。経験豊かなグラントの適切な指導の下で、同バレエ団の一層の飛躍が期待される。